是川小

主体的で対話的な授業づくり

～つながる意識をもたせる働きかけの工夫～（３年計画の３年次）

校長　新山　聡

１　研究主題について

本校では、教育目標「学ぶことの喜びと確かな力をもつ是川の子」、努力目標「考えを表現する子」を掲げ、主体的に学習に取り組む子供を育てることを目指している。そのために必要なのは、児童が「学びたい、話し合いたい」という意欲をもって学んでいける授業づくりをすることである。対話を通して学ぶ楽しさを感じさせることにより、友達と共に学び合い、高め合うことができると考え、本研究主題を設定した。

昨年度までに、「主体的で対話的な授業づくり」という研究主題のもと、課題解決の必要感をもたせる発問や題材の提示の工夫を行い、児童が自分の考えをもって議論ができるよう促すことに取り組んできた。その成果は以下のとおりである。

〇児童が身に付けるべき力を明確にした上で、児童に考えさせたいことを中心とした授業づくりを行った。考えさせたいことが明確になったことで、導入の工夫や児童をゆさぶる発問等の適切な手立てを講じることにつながり、考えをもたせる授業づくりについて理解を深めることができた。

〇主体的に議論する姿について共通理解し、日常の指導の中で対話する力を高める指導を行った。その成果や課題を短いサイクルで検証し共有することを重ねた。そのような教師の指導の工夫により、児童が自分の考えをもって議論できる力を育むことにつながった。その一方で、話合いの場面では「自分の意見を主張することに意識が向いてしまうことが多く、他者の意見をうけて自らの学びを深め、建設的な話合いを行おうとする態度が十分に身に付いているとは言えない」という課題が残された。

そこで今年度は、他者の意見を聞いてその意図を理解しようとしたり、共通点をさがし自分の考えとつなげて話したりできる授業づくりを行っていく。話合いを通して、全体で課題を解決する楽しさを感じさせることにより、主体的な学びにつながると考え、副題を「つながる意識をもたせる働きかけの工夫」と設定した。なおその際には、昨年度までの研究の成果である以下の３点を生かした授業づくりを行う。

・教材の特性及び系統性、児童の実態についての深い理解をもとに、ねらいと適切な手立てを工夫する。
・児童に身に付けさせたいことを「考えたいこと」として児童に提示し、導入の工夫や思考を促す発問など、児童が考えたいことを中心にした授業づくりを行う。
・児童が自ら対話できるよう促す教師の働きかけについて、教師が日常の授業の中で研究し、短い間隔で共有し検証することを重ね、さらに指導に生かす。

これらのことによって、児童が自分の考えをもち、主体的に伝えたり、受けとめたりして議論できる学びの力を身に付けることができると考える。

２　研究のねらい

主体的で対話的な学びの実現に向けた指導の在り方について、児童が話合いを通して全体で課題を解決する力を育むために、授業づくりにおいて働きかけを工夫し、児童が他者の意見と自分の考えをつなげて話合う意識をもたせることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

各教科等での授業及び日常の指導の中で、他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を育成することを意識した日常の指導を行うことによって、主体的で対話的な学びを実現することができると考える。

(1) 教材の特性（価値）及び系統性や児童の実態、学習内容から、児童が身に付けるべき（育てるべき）学びの力を明確にし、児童に課題解決の必要感及び自分の考えをもたせる手立てと、児童の思考を促す発問を吟味する。

(2) 各教科等での授業及び日常の指導の中で、他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を育成することを意識した指導を行う。

４　研究内容

(1) 系統性（上下の学年とのつながり、学年内での同じ価値内容での児童の学び）をもとに教材を理解し、適切な授業のねらいとそのための手立てを明確にする。

(2) 児童に身に付けさせたいことを「考えたいこと」として児童に提示し、導入の工夫や思考を促す発問など、児童が考えたいことを中心にした授業づくりを行う。
(3) 児童一人一人に、課題に対して自分の考えをもたせることができるよう、目的を明確にした中心的発問の吟味や、児童の思考をゆさぶる補助発問を吟味する。
(4) 児童が他者の考えを聞き、つなげて話し合うことができるよう、教師の働きかけの工夫をする。(板書、ファシリテーションなど)

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

ア　提案授業

月	日	題材名及び授業者	本時の目標
11	1	６年１組　社会 「キリスト教の禁止と鎖国」 〈授業者〉教諭　溝江翔 講師：八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事　大野勉　氏	幕府による政策について、幕府とキリシタン両方の立場に立って考える活動を通して、武士による政治が安定したことを理解することができる。

イ　つながる意識をもたせる話合い相談会

月	日	題材名および授業者
6	1	６年１組　算数　「分数×分数」　〈授業者〉　教諭　釜石優子
9	7	４年１組　道徳　「学級新聞作り」　〈授業者〉　教諭　下川美智子
		３年１組　道徳　「学級ルールブックをつくろう」 〈授業者〉　教諭　大沢泰尚
9	21	５年１組　算数　「約数と公約数」　〈授業者〉　教諭　井沼志穂
		２年１組　国語　「動物園の獣医」　〈授業者〉　教諭　松村典佳
9	28	１年１組　算数　「ながさくらべ」　〈授業者〉　教諭　野里るみ子
		わかば・さくら　自立活動　「話題に沿って話そう」 〈授業者〉　講師　山下千生、　教諭　溝江翔

(2) 一般研修

月	日	内容・講師
6	1	ファシリテーションについての勉強会　（講師　是川小学校　校長　新山聡）
6	22	詩の指導研修会　（講師　小中野中学校　校長　佐々木宏恵　氏）
8	18	絵を描く会審査研修会（講師　前江南小学校　教諭　川村真弓　氏）
8	23	是川縄文遺跡文化についての研修会 （講師　是川縄文館副参事　小久保拓也　氏）
8	31	県学習状況調査の採点と分析
11	21	是川中学校区ジョイントスクール全体研修会にて授業参観
11	30	一人一台端末活用相談会 （講師　総合教育センター主任指導主事　石井一二三　氏）

6　研究の成果

(1) 児童が身に付けるべき学びの力を明確にし、問題解決的学習が成立するような授業づくりを行った。特に、児童が解決しなければならないことを児童自らが見つけられるような資料提示や発問などの工夫により、児童は最後まで問題の解決への必要感をもって取り組んだ。さらに、自分の考えを友達の考えとつなげていくことにもつながっていった。
(2) 他者の意見と自分の考えをつなげて話し合う力を高める指導を行った。提案授業および相談会の積み重ねにより、教師の働きかけの工夫として、構造的な板書を含めたファシリテーションが有効であることが分かった。その結果、比較、類推、言い換え、付け足し、仮定など様々に児童同士の考えがつながるようになった。つなげて話すことへの児童の意識が高まった。

7　研究の課題

(1) 自分で考えずに友達の考えが出されるのを待っている児童もあり、自力解決の姿勢や力が十分に育っているとは言えない。その原因の一つとして、児童の自信のなさが挙げられる。児童に自信をもたせられるような指導の研究が必要である。
(2) 児童の「つなげて話す」ことへの意識の高まりが、実際に授業で「つながる話合い」になるよう、ファシリテーションを中心とした教師の働きかけの工夫の研究を継続していく必要がある。

（記入者　釜石優子）